

- 中村八大 作曲家、ジャズピアニスト。世界的にヒットした「上を向いて歩こう」はじめ、数々のヒット曲を作曲した。
なかむらはちだい
満洲事変 - 1931 = 中国の青島で、日本人学校校長の子に生まれる。
_自宅にピアノや蓄音機。レコードなどがあるという恵まれた音楽環境で、
- 日中戦争始 - 1937 = 6歳 :
_音楽的素養を認めた父の勧めで、
- 大政翼賛会 - 1940 = 9歳 :
_小学4年生に進級すると同時に本土に単身留学し、新宿の国民学校へ転校するとともに、東京音楽学校の附属児童学園に週2回通い、ピアノと作曲の英才教育を受けるも、教育方針に疑問を抱き、レッスンをさぼって新宿、浅草などの劇場に足しげく通う、
- 日米開戦 - 1941 = 10歳 :
_太平洋戦争が始まって、
- 1942 = 11歳 :
_東京は空襲に見舞われ始め、_音楽留学を続けるのは不可能になったが、
- 創価学会検査1943 = 12歳 :
_青島へ戻り、
- 敗戦 - 1945 = 14歳 :
_父母の郷里である久留米市へ一家で引き揚げ、_敗戦とともに音楽活動を再開、旧制中学明善校で音楽部を結成し熱心に活動。自作の鉱石ラジオで進駐軍向けのラジオ放送を聴いたり、自宅近くの米軍のクラブで披露される演奏を漏れ聞かすなど、米軍音楽をむさぼるように聞き、
- 極東裁判決 - 1948 = 18歳 :
_当時売れっ子の作曲家利根一郎が北九州の炭鉱を慰問巡業、一座にいた兄二大からの誘いで加わり、中学の_文化祭では、クラシックのコンサートでのピアノ演奏、演劇グループの芝居での伴奏、のど自慢大会での全曲伴奏などをすべて引き受けて、度肝を抜かせた。
- 三大事件 - 1949 = 19歳 :
_上京、早稲田大学高等学院の3年に編入。_キャバレーでジャズ・ピアノ演奏のアルバイトを始め、兄二大の手で、大阪の名門ダンスホール「赤玉」で「谷口安彦とプレミア・スウィング」のメンバーになる。
- 朝鮮戦争始 - 1950 = 20歳 :
_早稲田大学へ入学。_二大の紹介で渡辺晋の勧誘を受け、松本英彦らとバンド「シックス・ジョーズ」を結成するやたちまち全国に知れ渡り、音楽雑誌「スイングジャーナル」の人気投票でバンドが部門2位、自らはピアニストとして1位を勝ち取るも、
- 独立回復 - 1951 = 21歳 :
_芸術性を追求しようとして、エンターテインメントと割り切る渡辺と衝突、松本とともに脱退し、
- TV放送始 - 1953 = 23歳 :
_松本、ジョージ川口、小野満の4人で「ビッグ・フォー」を結成。人気投票の各部門の1位のメンバーの顔合わせは若者から熱狂的に歓迎され、日本で初めて野球場での単独コンサートを開催し、
- 自衛隊発足 - 1954 = 24歳 :
_文化放送でレギュラー番組「トリス・ジャズ・ゲーム」を持つに至り、放送作家永六輔との関係始まる。1950年代後半に入ると、ジャズ自体の人気の下降線をたどり始め、代わってロカビリーが主流に躍り出る。この人気を牽引したのは渡辺プロダクションを設立していた渡辺晋であった。
- なべ底不況 - 1957 = 27歳 :
_インストアマン - 1958 = 28歳 :
_ナベプロが企画した「日劇ウエスタン・カーニバル」で人気に火がつき、山下敬二郎、水原弘、坂本九らスターを続々輩出し、ナベプロ主導で音楽業界のネットワークが大幅に変革することになるなか、ジャズ復興を賭けて、自主リサイタルの開催を決意するも、意欲が空回り、精神的に追い詰められ、薬物に手を出し、産経ホールでの「中村八大リサイタル」は無残な失敗で、残ったのは膨大な借金、薬物依存であった。
- 美智子妃 - 1959 = 29歳 :
_TBSラジオの芸術祭参加作品「琴と日本の打楽器のための組曲」を担当した時、締切当日、衝動的に自殺を思い立つが、自身の曲がスタジオから流れてきたのを耳にして思いとどまり、自宅へ戻ると直ちに薬物を廃棄、2週間禁断症状に絶え、'音楽は観客と遊離するべきものではない'という考えを自ら破っていたことを悟り、かつて袂を分かった渡辺のもとに頭を下げに行く。当時ナベプロはロカビリーをテーマにした映画の制作を進めていたが、この年に境に著作権法が厳密に適用されるようになり、肝心のロカビリーの曲という点で難題にぶち当たっていたため、映画の音楽担当を依頼され、大喜びで引き受けるも作詞家との伝手はなく思案に暮れるうち、たまたま出会った永六輔が引き受けてくれ、完成した10曲を持っていくと、作品が認められて音楽監督に採用され、*水原弘が歌った「黒い花びら」がヒット、古賀政男と服部良一の推しで、同年に始まった第1回日本レコード大賞に輝いた。以降、二人は「六・八コンビ」として数多くのヒット曲を世に送り出してゆく。
- 安保闘争 - 1960 = 30歳 :
_水原弘歌う「黄昏のピギン」、
- タイタイ病始 - 1961 = 31歳 :
_近畿日本鉄道の社歌「近鉄の歌」(永六輔作詞)など、企業の楽曲も作曲。_さらに、坂本九がデビューした「上を向いて歩こう」は、NHK「夢であいましょう」に登場。大反響を呼んで、東芝レコードより発売されるや、
- 全国総合計画1962 = 32歳 :
_ジュリー藤尾「遠くへ行きたい」。_フランスのパテ・マルコーニから発売
- TV宇宙中継始1963 = 33歳 :
_東海テレビの開局5周年を記念して作られたステーションソング「楽しい1チャンネル」を作曲。坂本九歌う「明日があるさ」。国辱的歌詞に変えられていたとは言え_米国のキャピトル・レコードから発売され、日本人の曲として初の米国チャート1位、日本の音楽が世界に通用することが証明された。以降、レコード会社の専属作家というシステムはほぼ終焉する。過労がたたって十二指腸潰瘍で入院するが、永との共作「みちよ歌う」「こんには赤ちゃん」で2度目のレコード大賞。
- 東京ライブ 1964 = 34歳 :
_翌年にかけて、ニューヨークで、休養を兼ねて世界の音楽を学ぶ。デュークエイセス「おさななじみ」。
- 大学紛争始 - 1965 = 35歳 :
_この年始まる日本テレビの演芸バラエティ番組「笑点」のテーマ曲、CBCラジオ「0時半です松坂屋ですカトレアミュージックです」などテレビ、ラジオのジングル(CMや番組冒頭に流れる短曲)の作曲数は膨大。
- いざなぎ景気1966 = 36歳 :
_美濃部都知事1967 = 37歳 :
_早稲田大学応援歌「吼える早稲田の獅子」、
- シンガーソングライターが現れ、歌詞とメロディーの時代は去り、ビートの時代が訪れる。永が作詞家を辞めて放送作家に返り咲くなか、子供の頃からの夢で'全ての音楽の集大成'と位置付ける交響曲に取り組み始めるが、ひどい風邪を引いて作曲作業が困難になったため、玉木宏樹に完成を依頼、リサイタルは満足の行く出来栄であったが、達成感と同時に、疲労感と虚脱感も大きかった。リサイタルを終えて間もなく、
- 糖尿病を発症。以後、うつ病にも苦しんで、音楽活動の一線からは退き、
- ドルショック - 1971 = 41歳 :
_この年始まるTBSの「JNNニュース」のテーマ曲など、各テレビ番組のオープニングテーマも作曲している。
- 石油ショック1973 = 43歳 :
_パ・リーグ公式連盟歌「白いボールのファンタジー」を作曲した(一般公募の歌詞に曲をつけたもの)。かなりの年月が経過していたためほぼ忘れ去られた存在であったが、2004年、プロ野球再編問題で世間が大騒ぎしていたとき、パ・リーグファンが歌い出したことから再び注目された。
- 成田衝突 - 1978 = 48歳 :
_黒人女性デュオ「テイスト・オブ・ハニー」の「上を向いて歩こう」英語版がビルボード最高位になるなか、
- 1981 = 51歳 :
_早稲田大学応援歌「いざ青春の生命のしるし」作曲、
- 中曽根内閣 - 1982 = 52歳 :
_..... 1984 = 54歳 :
_心不全のため 没した。
- バブル崩壊 - 1992 = 62歳 :
_翌年、「上を向いて歩こう」を、黒人ラッパー「スヌープ・ドギー・ドッグ」がデビューアルバムで取り上げ、史上初の全米チャート初登場1位に輝く。3年後、ボーカルグループ「4PM」がカバーして、ビルボード最高位8位を記録。